

4.11 ごみ焼却場併設型融雪槽整備事業

個別概要シート

担当部局	北海道局
事業名称	ごみ焼却場併設型融雪槽整備事業
事業主体	市町村
事業範囲	融雪槽（雨水調整池）の設計、建設 ごみ焼却場余熱回収設備の設計、建設 融雪槽（雨水調整池）の運営、運転 融雪槽（雨水調整池）、熱回収設備の維持管理業務
事業方式	B T O方式
事業期間	設計建設期間 3年 維持管理期間 20年 合計 23年間
事業費内訳 （従来型）	施設整備費： 約 1,400百万円 維持管理・修繕費： 約 7百万円/年 運営費： 約 15百万円
資金調達	国からの補助金： 施設整備費の37% 地方債発行額： 施設整備費の57% （交付税補填措置50%） 一般会計負担額： 施設整備費の6%
地方債発行条件	充当率90%、据置3年込み20年償還 金利3.0%
運営上の優遇措置	なし
総合リスク評価	低
リスク分担上の留意点	隣接するごみ焼却場の運営・管理は、公共が行う。

ごみ焼却施設併設型融雪槽（雨水調整池）整備事業（北海道局）

1. 概要

- ・土地利用の高度化など、将来の市街化による雨水浸水被害や水質保全に対応するために雨水調整地を整備する。冬季間は流入する雨水がないことから、隣接する清掃工場のごみ焼却余熱を利用して、融雪槽としても活用する。
- ・民間の資金、経営能力、技術的能力を活用することにより行政が直接実施するよりも効率的かつ効果的にサービスを提供する。

2. 立地条件

- ・積雪地で、かつ雨水調整池が必要とされる地域
- ・ごみ焼却施設の余熱利用が可能な場所
- ・敷地面積：約 2,000 m²

3. 業務範囲

(1) 施設整備

(a) 計画

- ・整備及び運営に関する方針等の基本的な計画については公共が作成

(b) 設計

- ・融雪槽（雨水調整地）及びこれに付帯する施設の設計及び関連業務

(c) 建設

- ・施設の建設工事及び関連業務
- ・融雪槽の規模：約 1,900 m²
- ・施設の延べ床面積：約 600 m²

(2) 維持管理・運営

(a) P F I 事業者が実施する業務

維持管理

- ・施設の維持管理業務（施設の維持管理、点検）
修繕（大規模修繕を含む）
- ・施設の設備保守管理業務（設備の保守、その他一切の修理業務を含む）

運営

- ・融雪槽としての運営業務（施設の運転、監視）
- ・雨水調整地としての運営業務（施設の運転、監視）

(b) 公共が実施する業務

維持管理

- ・ P F I 事業者の維持管理業務に対して、定期的なモニタリング等を実施

修繕（大規模修繕を含む）

- ・ なし

運営

- ・ P F I 事業者の運営業務に対して、定期的なモニタリング等を実施

4. リスクに関する留意事項

- ・ 隣接するごみ焼却場の運営・管理は、公共が行う。

当該シミュレーションでは融雪槽のみ対象としているが、ごみ焼却施設(廃棄物処理施設)の P F I 実施事例があることから、両施設の整備・管理・運営を一元的に行うことが可能であれば、より効率的な管理・運営が可能になると思料。

図1 事業概要

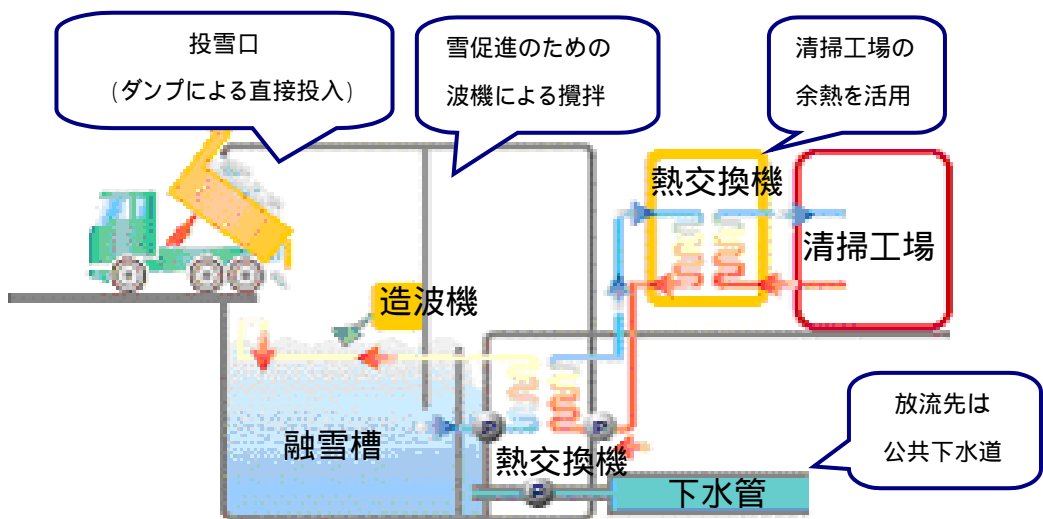
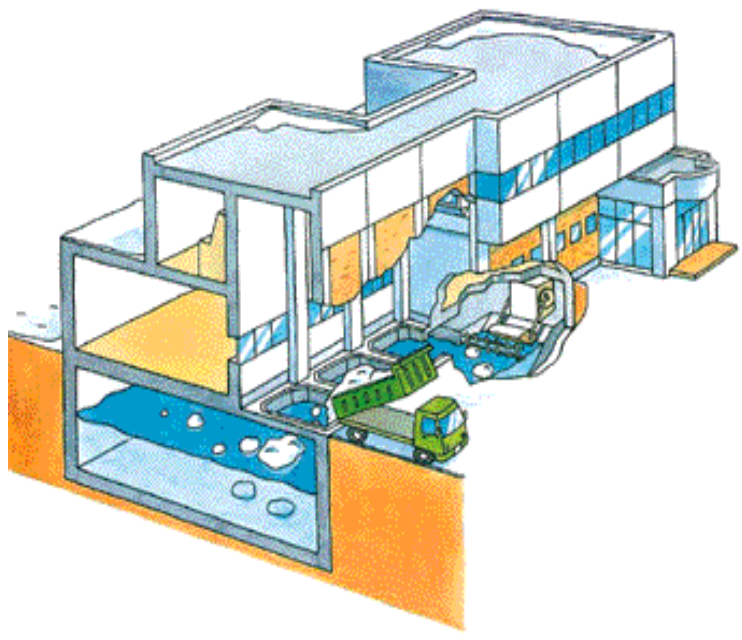


図2 施設の完成予想図



リスクの種類	No.	リスクの内容	リスク分担				リスク分担の具体的内容	移転リスクに関する留意点 (各事業共通分)	移転リスクに関する留意点 (特に当該事業に関するもの)	移転リスクとして特に留意すべきものにマーク	備考
			従来型		PFI						
			公共	民間	公共	民間					
共通	入札リスク	1 入札説明書の誤り、入札手続の誤りなど					入札説明書の訂正、入札手続の更正などにより選定事業者に発生した追加費用を公共側が負担する。				
		2 落札者と契約が結べない、または契約手続きに時間がかかる					契約遅延の原因が事業者側にある場合は、契約の遅延により公共側に発生した追加費用を事業者が負担する。それ以外の場合は、それぞれに発生した追加費用をそれぞれが負担する。	事前に公表される契約書(案)の内容理解に齟齬があって契約手続きが遅延する場合等が想定されるが、発生の確率は低い。			
	制度変更リスク	3 当該事業に係る根拠法令の変更、新たな規制立法の成立など	*	*			当該事業に係る法令変更、新規立法に対応するための増加費用は公共が負担する。同じく、事業が中止となった場合に発生する追加費用を公共側が負担する。				
		4A 当該事業のみならず、広く一般的に適用される法令の変更や新規立法	*	*			当該法令変更、新規立法に対応するための増加費用は民間が負担する。同じく、事業が中止となった場合に発生する追加費用を民間が負担する。	経過措置、激変緩和措置、不遡及措置が取られることが一般的であり、事業に与える影響は小さいと想定される。			
		4B 当該事業のみならず、広く一般的に適用される法令の変更や新規立法(建設期間)	*	*			当該法令変更、新規立法に対応するための増加費用は公共が負担する。同じく、事業が中止となった場合に発生する費用を公共側が負担する。建築基準法の改正による耐震性強化の場合は、追加コストは公共が負担する。				
	税制変更リスク	5 当該事業に関する新税の成立や税率の変更	*	*			当該事業に係る税制変更により発生する増加費用は公共が負担する。同じく、事業が中止となった場合に発生する追加費用を公共側が負担する。				
		6A 消費税に関する変更、法人に課される税金のうち、その利益に課されるもの以外に関する税制度の変更	*	*			公共が支払う消費税を変更後の税率によって増減して支払う。また、利益に課される税金以外の税制度変更によって増加した費用を公共が負担する。				
		6B 法人に課される税金のうちその利益に課されるものの税制度の変更	*	*			法人税などの収益に課される税率変更などを理由とするサービス対価の改訂は行わない。	事業者の最終利益の配分に影響を与えるが、事業に直接的に与える影響は小さい。増税となる場合、期待収益の減少が消費者へ値上げの形で転嫁された場合、事業費の増嵩として間接的に事業に影響が及ぶことが想定される。事業範囲に独占または寡占状態に近い業務が含まれていない限り、間接的な影響も小さい。			
	許認可リスク	7 事業管理者として公共側が取得すべき許認可の遅延					当該許認可取得の遅延に伴い事業者側に発生した増加費用を公共側が支払う。				
		8 工事や運営業務の実施に関して事業者が取得すべき許認可の遅延					当該許認可取得の遅延に伴い公共側に発生した増加費用を事業者が支払う。	事業の特性により異なるが、民間事業者は許認可取得に習熟しており、発生の可能性は低いと想定される。			
	政治リスク	9 政治上の理由ないし政策変更により、事業の内容が変更ないし中止される					事業内容の変更に対応するための増加費用は公共側が負担する。事業が中止となった場合の損害賠償に因ずる。				
	社会リスク	住民対応リスク	10 施設の設置および運営に関する住民反対運動、訴訟、要望などへの対応					公共側が訴訟費用を負担するとともに、これにより事業が遅延して事業者側に発生した追加費用を公共側が負担する。			
11 事業者が行う調査、建設、維持管理に関する住民の訴訟、苦情、要望などへの対応							事業者が訴訟費用を負担するとともに、これにより事業が遅延して公共側に発生した追加費用を事業者が負担する。	一般的に、民間事業者が行い得る調査、建設、維持管理等は定型化され、習熟していることが想定されるので、住民による訴訟、苦情などの発生の可能性は低いものと想定される。			
環境リスク	12 事業者が行う業務に起因する環境問題(騒音、振動、有害物質の排出など)に関する対応					環境問題に関する対応費用をあらかじめ見積もって金額を提案するが、事後的に変更を認めない。	環境問題対応費用の見積り精度を上げる必要があるが、立地や事業特性により、大きく異なる可能性がある。	廃雪の搬出入等が夜間に行われる施設であり、周辺住環境との関係から騒音や振動の発生等に対する住民感情が他の施設よりも高い。			

リスクの種類	No.	リスクの内容	リスク分担				リスク分担の具体的内容	移転リスクに関する留意点 (各事業共通分)	移転リスクに関する留意点 (特に当該事業に関するもの)	移転リスクとして特に留意すべきものにマーク	備考
			従来型		PFI						
			公共	民間	公共	民間					
第三者賠償リスク	13	事業者の行う業務に起因する事故、事業者の維持管理業務の不備に起因する事故などにより第三者に与えた損害					施設管理者である公共側が損害賠償の責めを負うが、事業者に帰責性がある場合は事業者に求償する。	第三者賠償は、民間事業者の行う事業の特性に応じて巨額になる可能性がある。なお、第三者賠償保険により、リスクの軽減を図ることができる。			
	14A	所定の基準の範囲内に収まっているものの、本件施設整備の施工に伴い避けることができない騒音、振動、地盤沈下、地下水の断水、臭気の発生などにより第三者に損害を与えた場合					民間が損害賠償の責めを負う。	立地や事業特性によるが、民間事業者は事業に習熟しており、施設整備に伴う第三者賠償の発生の可能性は低い。			
	14B	公共側要因による事故で第三者に損害を与えた場合					施設管理者である公共が損害賠償の責めを負う。				
経済リスク	資金調達リスク	15 事業に必要な資金の確保					資金調達コストの上昇や資金調達方法の変更に伴う追加費用などは事業者が負担する。	事業規模が大きくなるほど、また、設計・建設期間が長くなるほど、当該リスクは高くなる。			
	物価変動リスク	16 設計・建設段階の物価変動					設計・建設期間の物価変動を見込んだ金額を提案してもらい、変更を認めない。	見積りの精度を上げることにより対応するが、設計・建設期間が長くなるほど物価変動による影響は大きくなる。	設計・建設期間が複数年度にわたるため、単年度で整備される施設等に比べ、より金利変動の影響を受けやすい		
		17 維持管理・運営段階の物価変動					物価変動に合わせて、定期的に運営事業に関する費用の見直しを行う。	物価変動に合わせて、定期的に運営事業に関する費用の見直しを行うことから、物価変動の影響は相当程度抑えられる。			
金利変動リスク	18 設計・建設段階の金利変動		*	*			設計・建設期間の金利変動を見込んだ金額を提案してもらい、変更を認めない。但し、公共側からの支払い金利の基準日については、民間側が、金利変動リスクをコントロールできるようになるまでの期間を勘案の上、設定することが必要。	設計・建設期間が長くなるほど、金利変動の影響を受け易い。	設計・建設期間が複数年度にわたるため、単年度で整備される施設等に比べ、より金利変動の影響を受けやすい		
	19 維持管理・運営段階の金利変動						金利変動に応じて定期的に金利を見直し、割賦代金に係る支払利息を変更する。	金利変動に合わせて定期的に金利を見直し、割賦代金に係る支払利息を変更することから、金利変動の影響は相当程度抑えられる。			
不可抗力リスク	22	計画段階で想定していない(想定以上の)暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地滑り、落盤、落雷などの自然災害、および、戦争、騒擾、騒乱、暴動その他の人為的な事象による施設の損害、運営事業の変更、中止					不可抗力による施設の損害に関する修復費用は公共側が負担する。不可抗力による運営事業の変更、中止に伴い、事業者が発生した追加費用は公共側が負担する。(建設段階は中央建設審議会標準請負契約約款に定めがある。費用の負担割合につき別途の取り決めも可能)	一般的に、当該リスクの発生の可能性はそれほど大きくないものと想定される。また、発生した場合においても、当該リスクの大部分は公共側が負担することが一般的であり、事業者側が負担する部分はそれほど多いものではない。			
計画段階	計画リスク	測量・調査リスク	23 公共側が実施した測量、地質調査、文化財調査等に不備があった場合					測量結果、調査結果の不備に起因する設計変更、工法変更などの変更に伴い事業者が発生する追加費用を公共側が負担する。			
		24 事業者が実施した測量、地質調査、文化財調査等に不備があった場合					測量結果、調査結果の不備に起因する設計変更、工法変更などの変更に伴い公共側が発生する追加費用を事業者が負担する。	事業の特性により異なるが、民間事業者は調査・測量に習熟しており、発生の可能性は低いと想定される。			
	設計リスク	25 公共側が実施した基本設計、実施設計等に不備があった場合						設計の不備を補正するため、ないし、工法・工期の変更に伴い事業者が発生する追加費用を公共側が負担する。			
		26 公共側の施設設計要求内容、設計予条件の内容に不備があった場合						設計変更を行うため、ないし、工法・工期の変更に伴い事業者が発生する追加費用を公共側が負担する。			
		27 事業者が実施した設計に不備があった場合						設計の不備を補正するため、ないし、工法・工期の変更に伴い公共側が発生する追加費用を事業者が負担する。	事業の特性により異なるが、民間事業者は設計業務に習熟しており、発生の可能性は低いと想定される。		
計画変更リスク	28 公共側の要望による設計変更、計画変更、ないし、環境アセスメント等による計画変更を行う場合						設計変更、計画変更に伴い事業者が発生する追加費用を公共側が負担する。				

リスクの種類	No.	リスクの内容	リスク分担				リスク分担の具体的内容	移転リスクに関する留意点 (各事業共通分)	移転リスクに関する留意点 (特に当該事業に関するもの)	移転リスクとして特 に留意すべきもの にマーク	備考		
			従来型		PFI								
			公共	民間	公共	民間							
建設 段階	用地リスク	用地取得 リスク	29	施設整備に係る用地の取得遅延、ないし、取得できなかったことによる計画変更。用地取得費の予算オーバー									
		用地の 瑕疵リスク	30	計画地の土壌汚染、埋蔵物などによる計画変更									
		地質・地盤 リスク	31	当初調査では予見不可能な地質・地盤状況の結果、工法、工期などに変更が生じた場合									
	工事リスク	工事費 増加 リスク	32	事業者の責めにより、当初予定の工事費をオーバーしてしまう場合									
			33	公共側の要因による設計変更などで当初予定の工事費をオーバーしてしまう場合									
			34	不可抗力により、当初予定の工事費をオーバーしてしまう場合									
		工期遅延 リスク	35	事業者の責めにより、契約期日までに施設整備が完了しない場合									
			36	公共側の要因による設計変更などで、契約期日までに施設整備が完了しない場合									
			37	不可抗力により、契約期日までに施設整備が完了しない場合									
	工事監理リスク		38	工事監理の不備により工事内容、工期などに不具合が発生									
要求性能未達リスク		39	施設完成後、公共側の検査で要求性能に不適合の部分、施工不良部分が発見された場合										
技術進歩リスク		40	計画・建設段階における技術進歩に伴い、施設・設備内容の変更が必要となる場合										
運営 段階	維持管理 リスク	要求水準 未達リスク	41	事業者の行う維持管理業務の内容が契約書に定める水準に達しない場合(従来は直営を想定)									
		施設瑕疵 リスク	42	事業期間中に施設の瑕疵が発見された場合(BOT事業)								BTO事業のため、BOT事業に関する本項目は対象外	
			43A	BTO事業の事業期間中に施設の瑕疵が発見された場合(瑕疵担保期間内の場合)									
			43B	BTO事業の事業期間中に施設の瑕疵が発見された場合(瑕疵担保期間終了後の場合)									

リスクの種類	No.	リスクの内容	リスク分担				リスク分担の具体的内容	移転リスクに関する留意点 (各事業共通分)	移転リスクに関する留意点 (特に当該事業に関するもの)	移転リスクとして特に留意すべきものにマーク	備考
			従来型		PFI						
			公共	民間	公共	民間					
維持管理費増大リスク 施設損傷リスク	44	公共側の指示以外の要因による維持管理費が増大する場合(除く物価・金利変動)					事業者の責任と費用負担により維持管理業務を実施する。サービス対価の見直しは行わない。	事業の特性により異なるが、民間事業者は維持管理業務に習熟しており、発生の可能性は低いと想定される。			
	45	施設の劣化に対して、事業者が適切な維持管理業務を実施しなかったことに起因する施設の損傷(従来は直営の場合を想定)					事業者の資金負担により、損傷部分の修復を行う。モニタリングによる減額、契約解除ないし損害賠償の対象となる。	事業の特性により異なるが、民間事業者は維持管理業務に習熟しており、発生の可能性は低いと想定される。			
	46A	公共の責めにより施設が損傷した場合					公共の資金負担により、損傷部分の修復を行う。修復ではなく、事業の中止が合理的であると公共が判断した場合は、公共の責めによる契約の終了となる。				
	46B	公共、民間どちらの責めにもよらない事故や火災などの要因により施設が損傷した場合					公共の資金負担により、損傷部分の修復を行う。修復ではなく、事業の中止が合理的であると公共が判断した場合は、不可抗力による契約の終了となる。				
運營業務リスク	要求水準未達リスク	47	事業者の提供する運營業務のサービスの内容が契約書に定める水準に達しない場合					モニタリングにより、運營業務の内容が要求水準に達していないことが判明した場合、公共は改善計画の策定を命ずるとともに、要求水準未達の状態が改善されなければ、サービス対価を減額する。引き続き、改善がなされなければ、契約を解除する。	事業の特性により異なるが、民間事業者は運營業務に習熟しており、発生の可能性は低いと想定される。		
	需要変動リスク	48A	サービス購入型事業において、当初見込みより施設利用者が増減することにより、運營業務需要が減少(収入の減少)ないし、運營業務費用が増加する場合					事業契約において施設利用者数の変動範囲を合意し、この範囲内の変動に関する費用の増加、収入の減少は事業者の負担とするが、その範囲を上回る需要変動については、サービス対価の見直しを行う。	需要変動については、あらかじめ変動範囲を合意し、またその範囲を上回る需要変動については、サービス対価の見直しを行うことから、需要変動の影響は相当程度抑えられる。		
	需要変動リスク	48B	サービス購入型事業において、当初見込みより施設利用者が増減することにより、運營業務需要が減少(収入の減少)ないし、運營業務費用が増加する場合					利用者が減少した場合、ペナルティとしてサービス対価が減少する。	民間事業者の固定的な経費以上にサービス対価が減額されれば、事業に与える影響は大きい。		
	業務内容変更リスク	49	公共側の指示による運營業務の変更					業務内容の変更に伴い事業者が発生する追加費用を公共側が負担する。			
技術進歩リスク	50	技術進歩により維持管理業務、運營業務の内容が変更される場合					契約に基づき、変更に伴う追加費用の負担者を定める。	事業の特性により異なるが、大幅な技術進歩が予想される場合、あらかじめリスク分担を定める必要がある。			
移管段階	施設の瑕疵リスク	51	事業期間の終了に伴う施設の引渡前検査時点で施設の瑕疵が発見された場合(BOT事業のみ)					事業者の費用負担において施設の修復を行ってから施設の引渡しを行う。	事業の特性により異なるが、事業期間が長期にわたることから、ある程度の発生可能性があるとして想定される。		BTO事業のため、BOT事業に関する本項目は対象外
	移管手続きリスク	52	事業期間の終了に伴う、業務の移管に係る諸費用の発生、事業会社の清算に伴う評価損益の発生など					事業者の費用負担において適切な移管手続き、清算手続を行う。	一般的に、発生の可能性はそれほど大きくないと想定される。		

★

従来の公共工事では、当該リスクの分担については明確ではなく、個々の発生したケースに応じて対応することとなる。

△

想定されないもの

特に留意すべき マークの合計: 3

総合リスク評価 の数
借入金利

3以下	リスク低	基準金利 + 1.0%
4~5	リスク中	基準金利 + 1.5%
6以上	リスク高	基準金利 + 2.0%

基準金利 = 3.0%

感度分析表：公共の財政負担削減率が0%となるようにサービスの対価を設定した場合

担当部局	北海道局	事業期間	計 23年間
事業名称	ごみ焼却場併設型融雪槽整備事業	設計・建設期間	3年間
事業主体	市町村	維持管理・運営期間	20年間
使用モデル	model C	事業費	
事業方式	BTO方式	施設整備費	約 1,400百万円
		維持管理・運営費	約 22百万円/年
		リスク評価	低
		借入金利	4.0%

指標A: PIRR

(単位: %)

施設整備費 維持管理・ 運営費の効率性	100%	95%	90%	85%	80%
100%	3.12	3.56	3.98	4.27	4.49
95%	3.27	3.70	4.12	4.41	4.64
90%	3.41	3.83	4.24	4.52	4.77
85%	3.56	3.96	4.35	4.64	4.88
80%	3.68	4.09	4.47	4.74	5.01

< PIRRの網掛けの基準 >

- : 借入金利 + 1.0%以上2.0%未満
- : 借入金利 + 2.0%以上

指標B: DSCR(平均)

施設整備費 維持管理・ 運営費の効率性	100%	95%	90%	85%	80%
100%	1.12	1.17	1.22	1.25	1.27
95%	1.14	1.18	1.23	1.26	1.29
90%	1.15	1.20	1.24	1.28	1.31
85%	1.17	1.21	1.26	1.29	1.32
80%	1.18	1.23	1.27	1.30	1.34

< DSCR (平均) の網掛けの基準 >

- : 1.00以上1.20未満
- : 1.20以上

指標C: EIRR

(単位: %)

施設整備費 維持管理・ 運営費の効率性	100%	95%	90%	85%	80%
100%	計測不能	2.73	5.33	6.89	7.96
95%	0.74	3.64	6.11	7.57	8.66
90%	1.72	4.45	6.70	8.09	9.25
85%	2.73	5.21	7.29	8.66	9.72
80%	3.51	5.91	7.87	9.12	10.29

< EIRRの網掛けの基準 >

- : 8.00%以上10.00%未満
- : 10.00%以上

指標B: DSCR(最低)

施設整備費 維持管理・ 運営費の効率性	100%	95%	90%	85%	80%
100%	1.02	1.06	1.10	1.14	1.15
95%	1.04	1.08	1.12	1.14	1.18
90%	1.05	1.08	1.12	1.17	1.18
85%	1.07	1.10	1.15	1.17	1.21
80%	1.07	1.11	1.15	1.20	1.21

< DSCR (最低) の網掛けの基準 >

- : 1.00以上1.20未満
- : 1.20以上

V F M算定結果に関する考察
<ごみ焼却場併設型融雪槽整備事業>

1. 民間事業者から寄せられた意見

(1) 事業性に関する意見

- ・ 総合的なリスク判断からも安定した事業であり、P F I事業として成立するという意見が寄せられた。
- ・ 民間金融機関からの調達金利はサービスの対価を支払う地方公共団体の状態や能力も評価の対象となるという意見も寄せられた。

(2) リスク分担に関する意見

- ・ 法令変更、税制変更に関しては、その影響の度合いによっては公共側も分担を検討すべきであるという意見が寄せられた。
- ・ 環境リスクは一方的に民間事業者に移転すべきリスクではないという意見が寄せられた。
- ・ 資金調達リスクにおいても、公共側と金融団の合意形成がなされない場合などは公共側もリスク負担をするべきであるという意見も寄せられた。
- ・ 設計期間の物価変動に伴う価格見直しを求める意見が寄せられた。
- ・ 民間事業者が行った測量・調査（特に地質・地盤に関して）の結果に関して、通常では想定できない不可抗力と言えるレベルの齟齬が生じた場合は民間事業者のみではリスク負担ができないという意見が寄せられた。
- ・ 施設設計内容に関し、公共側が「承認」した場合は公共側もリスクを負担すべきであるという意見が寄せられた。
- ・ 維持管理費増大リスクの把握のためには、公共側の「指示」の明確性が求められるという意見が寄せられた。
- ・ 公共側が設定した需要見込みを大幅に超過したことに起因する運営費の増加に関しては公共側が負担すべきであるという意見が寄せられた。
- ・ 業務移管費用は基本的に折半で負担すべきであるという意見が寄せられた。

(3) その他の意見

- ・ 事業化を検討するためには、運営形態、現状での利用状況など情報開示が必要であるという意見が寄せられた。
- ・ 要求水準が満たされているかを判断するモニタリングを実施する際には、恣意性の排除が前提となるという意見が寄せられた。

2. VFM算定結果に関する考察

- ・ 本事業は、従来方式においても補助金、地方債の活用割合が高い（補助金控除後の施設整備費に対する充当率70%）など財政支援が手厚く、初期投資負担が相対的に軽減されていることから、PFI方式の有する初期投資負担の繰り延べ効果を発揮しにくい事業と言える。
- ・ 一方、事業費規模は相対的に大きく、運営部分もあり、かつ、安定的な事業という判断から、事業者の関心は高く、多くの意見が寄せられた。
- ・ ただし、ごみ焼却場との併設事業であることから、当該施設により受ける影響がリスク分担上民間事業者に負担となる可能性もあるため、実際の事業の検討に当たっては、業務内容、リスク分担に関する可能な限り詳細な情報開示ときめ細かいリスク分担の検討がポイントとなる。
- ・ 具体的には、隣接するごみ焼却場は公共が運営・管理を行うことから、ごみ焼却場のトラブルに起因する本件事業への影響が、公共のリスクとなるか、民間のリスクとなるか、きめ細かく分析、検討が必要である。
- ・ さらに進んで、プラントとしてつながっている場合、リスク管理の観点からは、同一管理主体が管理するほうが効率的であり、かつ、リスクコントロールも容易であることが想定される。また、運転業務の効率化などに関して民間事業者の創意工夫の余地は大きいものと期待されるので、ごみ焼却場との一体管理・運営も検討する価値はあろう。